

七五番

宇治間山 朝風寒し 旅にして 衣貸すべき 妹もあら  
なくに

和銅元年戊申

天皇の御製

七六番

ますらをの 鞆の音すなり もののふの  
大臣 楯立つらしも

御名部皇女の和へ奉る御歌

七七番

我が大君 ものな思ほし 皇神の 継ぎて賜へる  
我がなけなくに

和銅三年庚戌の春二月、藤原宮より寧楽宮  
に遷る時に、御輿を長屋の原に停めて、古郷  
を廻望みて作らす歌

七八番

飛ぶ鳥の 明日香の里を 置きて去なば 君があたりは  
見えずかもあらむ